

C-71 大裁女物長着の衿付け線についての研究

東京家政大家政 ○神田和子 ソニー学園 本田雪子

1. 現今では、和服の着付けは一般に、体型の補正(ボディ作り)を土台にして行なわれているようですが、和服を気軽に、手早く、しかも衿もとを美しく着装するために、体型に合わせて衿付けを工夫することも可能ではないかと思われまます。

今回は長着を着装した場合に衿下りの部分にできる身頃のしわについて検討し、体型による *neck line* を試みてみました。

2. いかり肩体型、普通肩体型、なで肩体型の各被検者に対して、衿肩明き止りの縫代を0.3~0.4cm、衿下りの傾斜が0.8~1cmの直線で衿付けした浴衣地の長着を着装させて、衿付けの部分の身頃のしわの位置や分量を計り、それぞれの体型に合うように *neck line* を試みてみました。

3. いずれの体型でも、衿下りの部分の *neck line* は、肩山から4cm位までは直線だと身頃にしわができる(身体に合わなため)。その場合、いかり肩体型では、一般にしわは短く、浅く、肩山に近い部分にできる。また、なで肩で鎖骨の傾斜が大きい体型では、逆の現象が現われた。そこでしわの分量だけ身頃の *neck line* を深くカーブして衿付けしたとすると、しわは消え、和服の衿もとを美しくつくることが出来た。